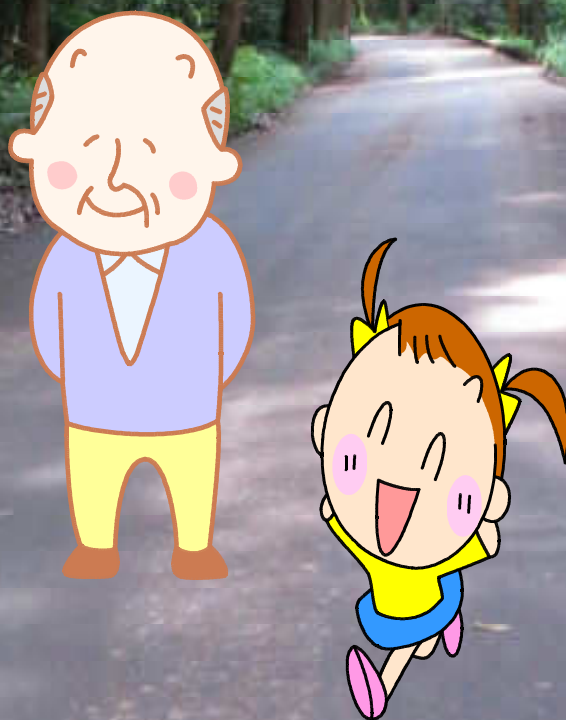


うしくでびっくり!

NO48

きたばたけちかふさがとおったみち



おくの地区社協
作 飯田昭夫



(ウィキメディアより)

なっちゃんが、みちをある
いていると おかあさんが、

「このみちのなまえ、しって
る？」

と きいてきた

「**かまくらかいどう**というん
でしょう」

「え！ どうして、しってい
るの？」

「まえにもきいたことがある
も一ん」

「じゃ、きたばたけちかふさ北畠親房って、しっ
てる？」

「ん～知らない」



なっちゃん、おじいちゃんに きいてみることにした。ものをよく知っている おじいちゃんが、だーいすき。

あれあれ、これはおもしろそうと、なぜなぜくんが、もりからあそびにきたよ。どこかな？



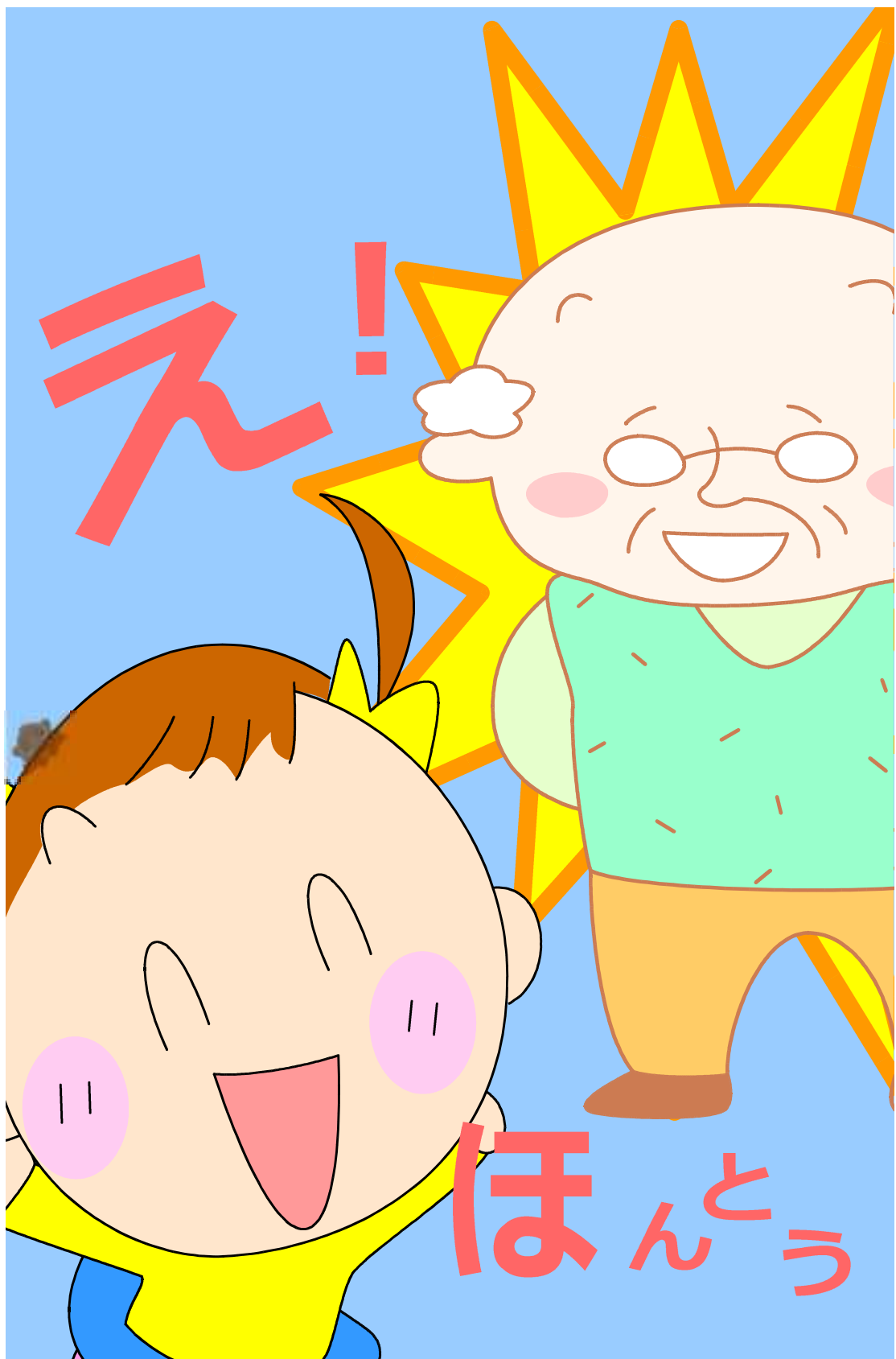
わたしは、なぜなぜでーす。

おじいちゃんに
きいてみると



「そうだな・・・。むかし、
じん の う し ょ う と う き神皇正統記をき た ば た けかいた北畠
ち か ふ さ親房が、このみちをと
おったんだよ。

くわしいことは、あき
おさんに きいてみれば
・・・。いっしょに い
ってあげるよ」



やくそくのひ。おじいちゃん
んと ふたりで、あきおさん
のいえにいった。

おじいちゃんは、ようじが
できて、いそいで かえって
いった。

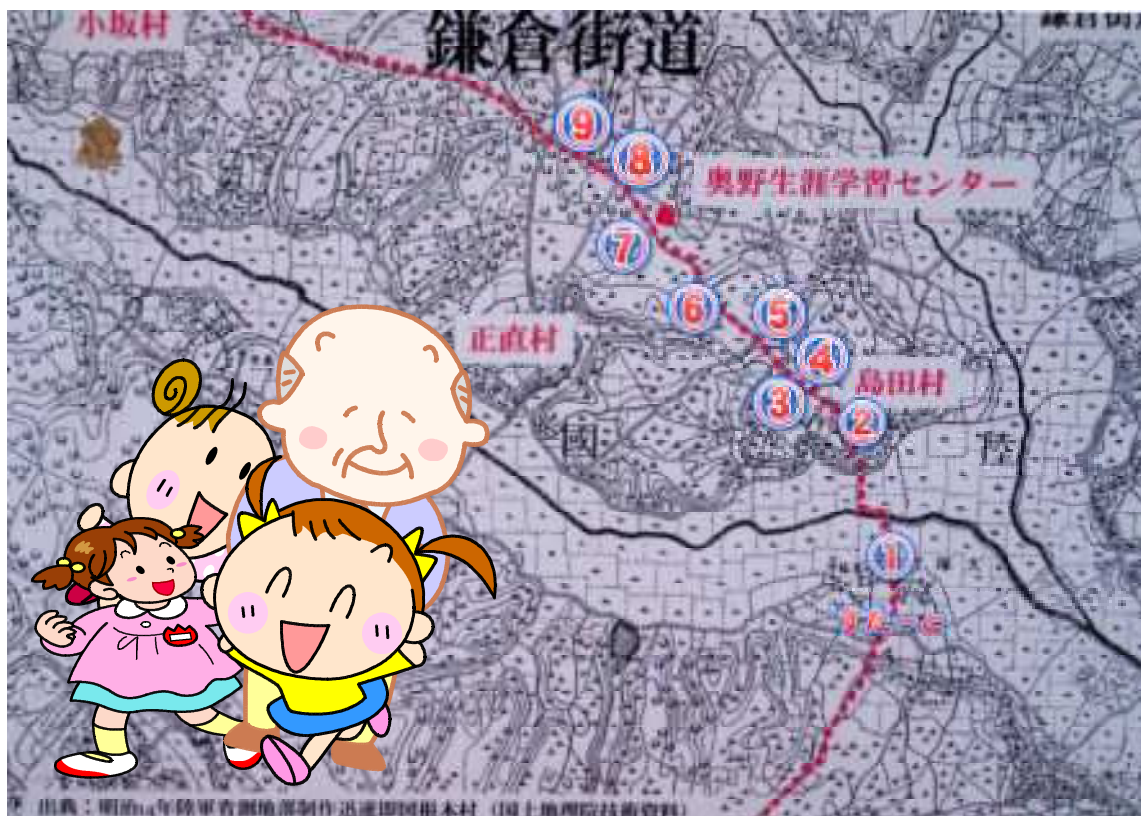
でも、なっちゃん、ゆうき
をだして、北畠親房きた ばたけ ち か ふ さについて
きいてみた。

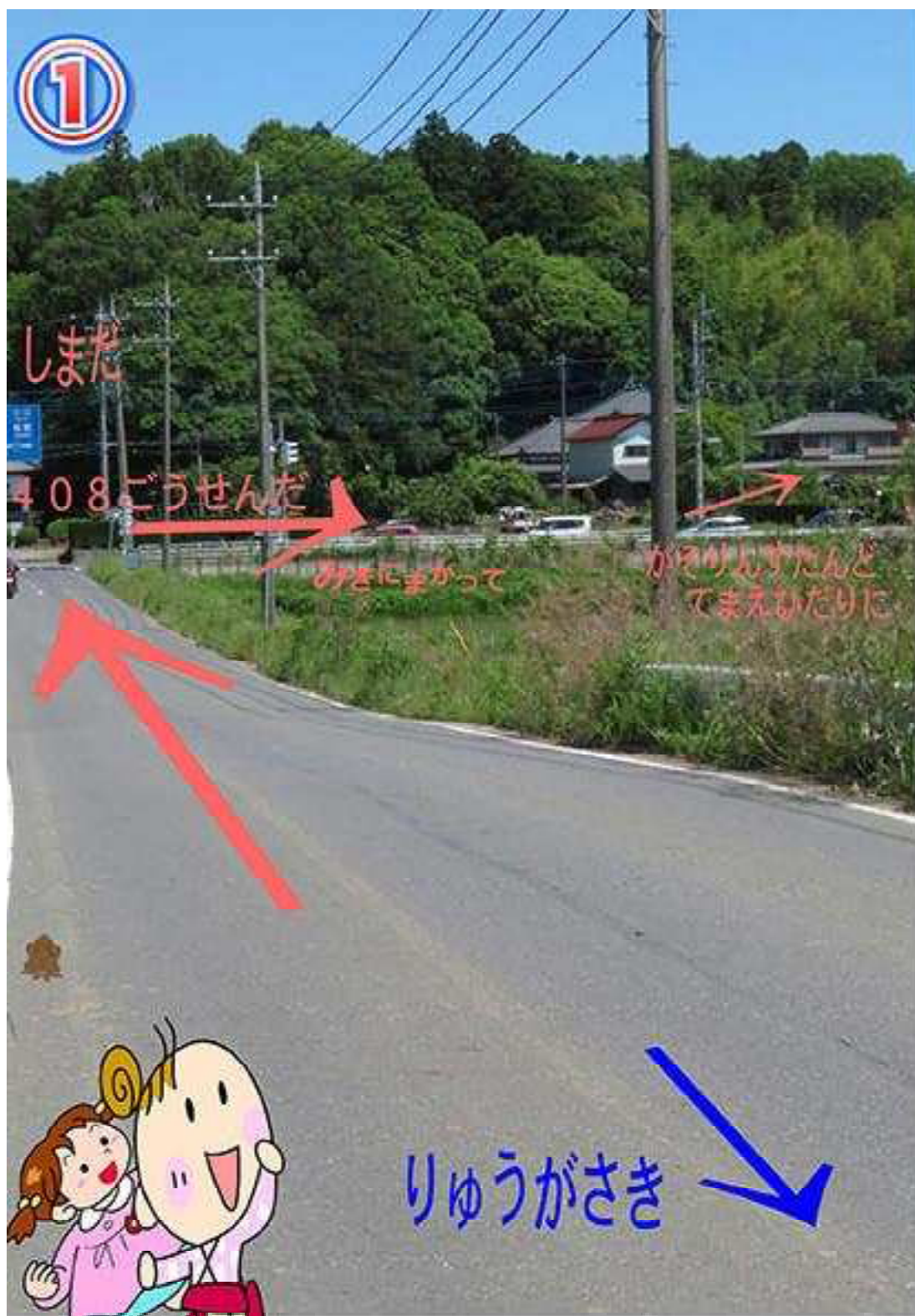
北畠親房きた ばたけ ち か ふ さは、つくばのお だ小田
じょう城にむかったんだ。そのとき
とおったみちの か まひとつが鎌
くら か い どう倉街道なんだよ。

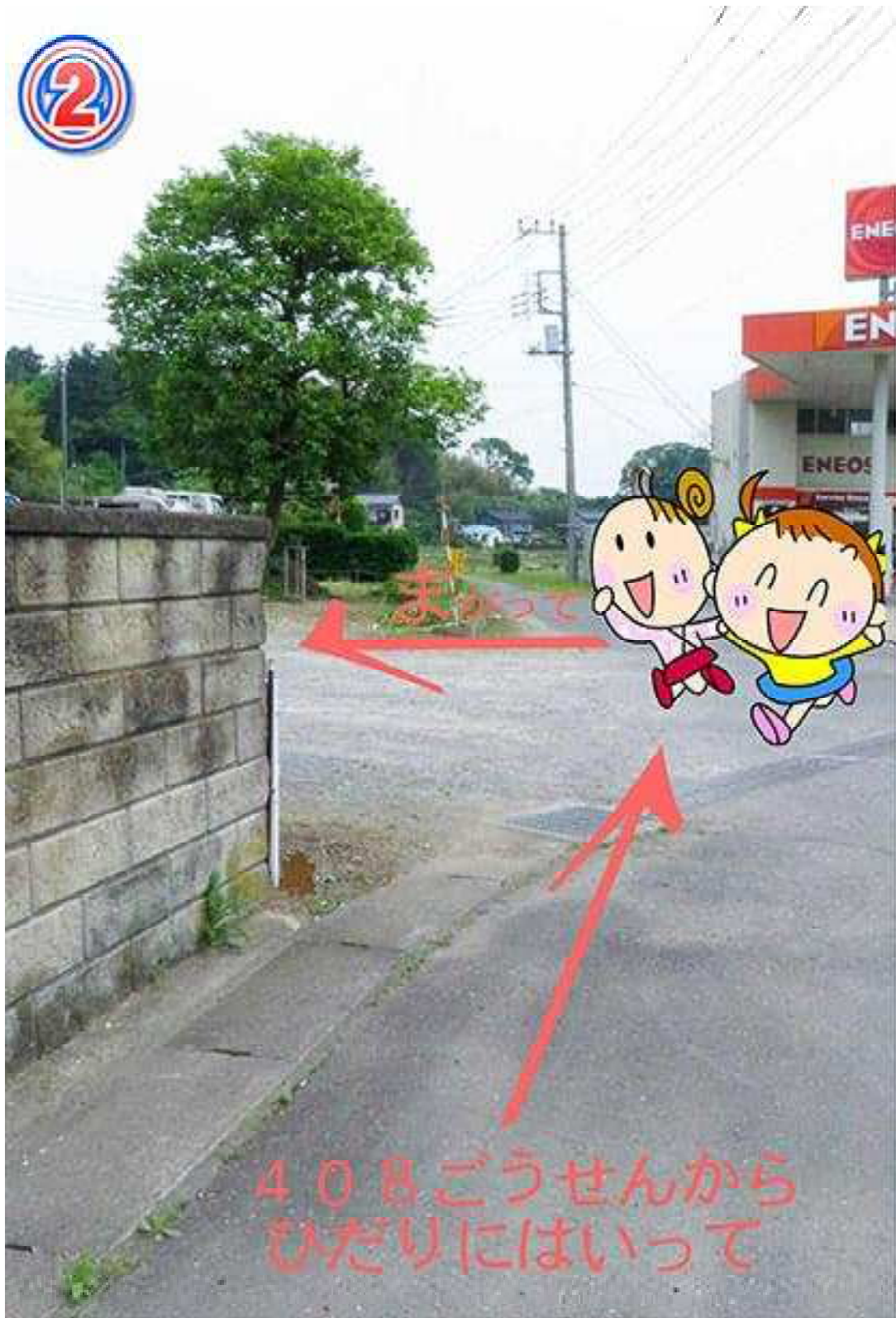


でも、なっちゃん、ばしょ
が、わからなかった。

みかねた あきおさんが、
あんないしてくれた。ちず①
からすた一と。





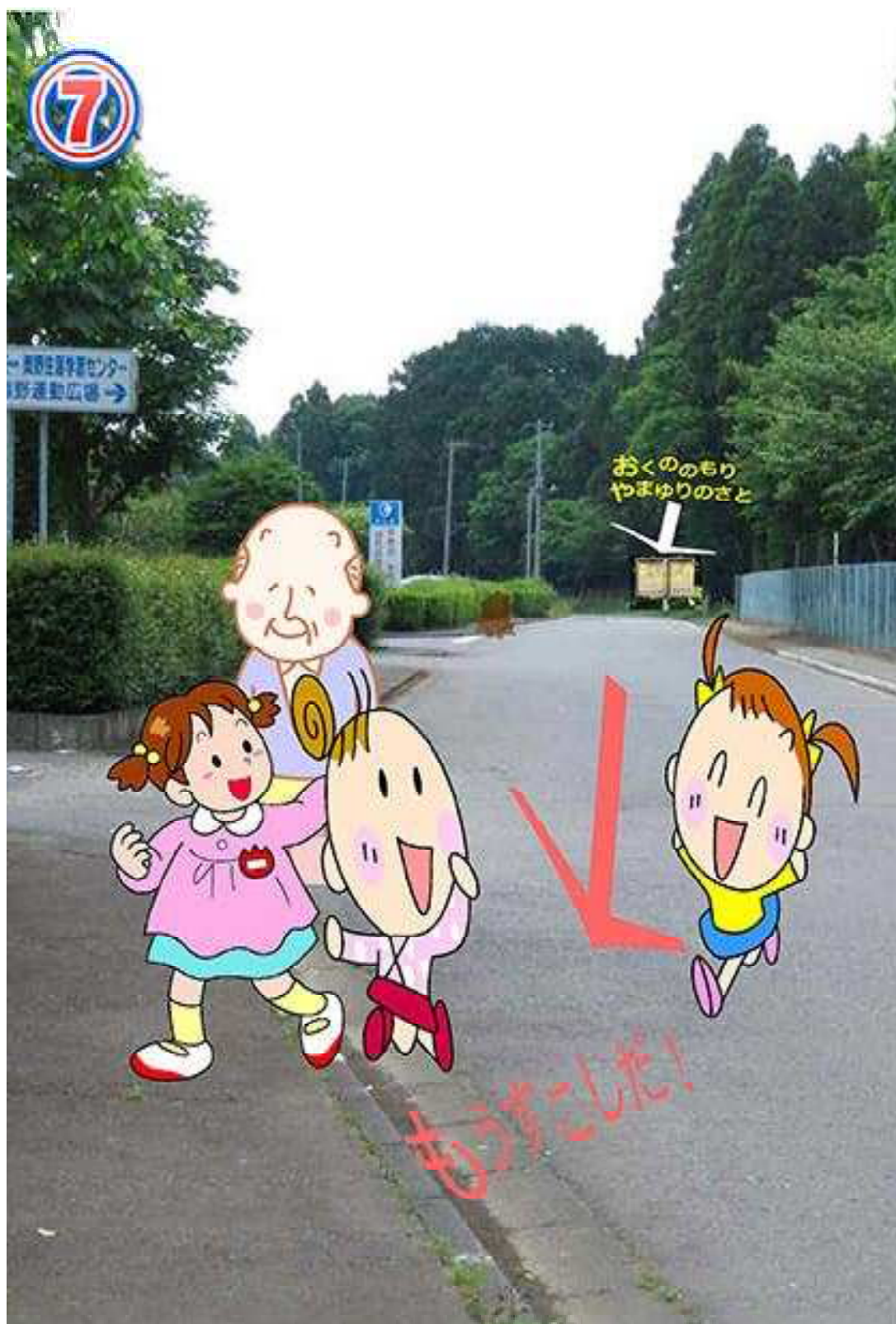






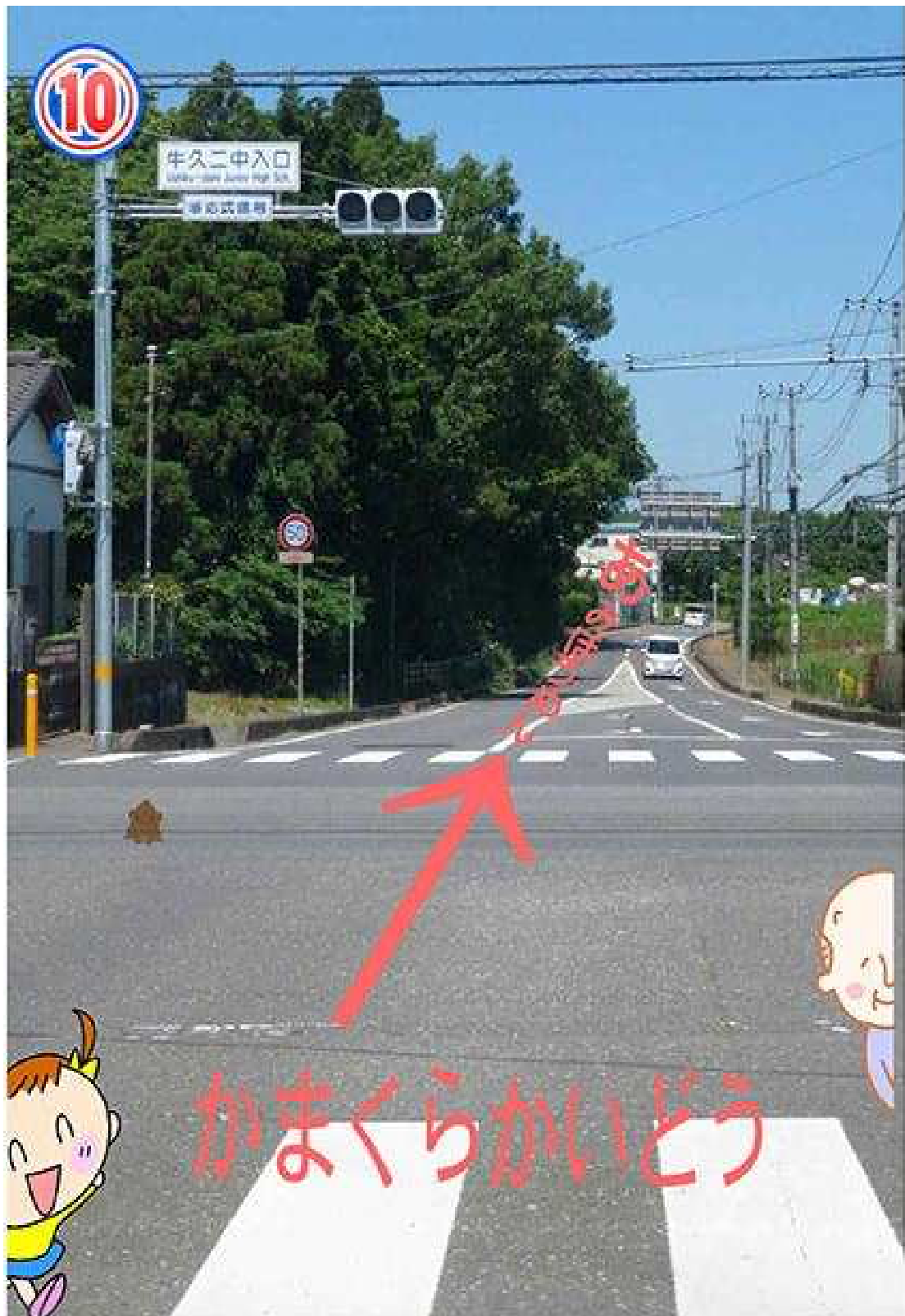












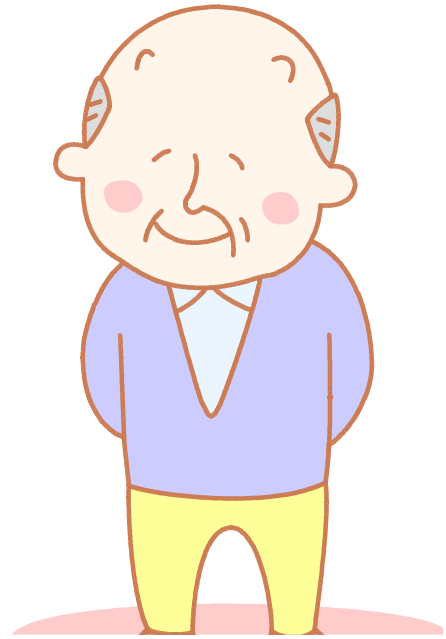
「いまきたみちが、**かまくら**
かいどうなんだよ」

と あきおさん。

「そうか、このみちが・・・」
なっちゃん、びっくり！

「でもね、にほ
んに **かまくら**
かいどうは、お
おきいものが3
つ。そのなかの
ひとつ（しもつみち）
が、このみち（よ
こはま・とうきょう・ふ

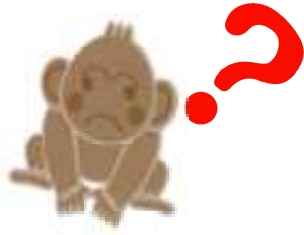
かわ・しまだ・おさか・うしくをとおる）な
んじや。



びっくり!

どうして このみちを北畠^{きた ばたけ}
親房^{ち か ふ さ}が、とおったの？

しーん・・・



それはね。もともととは、光^{こう}
明天皇^{みょう てん の う}（北朝^{ほく ちよう}）と後醍醐天皇^{ご だい ご てん の う}
の（南朝^{なん ちよう}）のあらそいがもと
なんだよ。茨城^{いばら き}でも恋瀬川^{こい せ が わ}を
はさんで、きたは、北朝^{ほく ちよう}、み
なみは、南朝^{なん ちよう}になったんだ。

きない^(京都ふきん)でも北朝^{ほくちよう}が、
つよくなってきた。そのとき
1338ねん親房^{ちかふさ}が、いばら
きにじょうりく。南朝^{なんちよう}のちか
らをひろげようとしたんだ。

いっぽう関氏^{ぜきし}（関城^{せきじよう}）・下
妻氏^{づまし}（大宝城^{たいほうじよう}）・小田氏^{おだし}（小
田城^{りようち}）らは、むかし^{なんちよう}の領地を
とりもどそうと南朝にみかた
したんだ。

それを佐竹氏^{さたけし}（北朝^{ほくちよう}）らが
こうげき^{ひたちがつせん}（常陸合戦）、たた
かいとなったんだ。

はじめは、^{じんぐう じじょう}神宮寺城に



(いなしきし)

でも、まけて

^{あばざきじょう}阿波崎城に



(いなしきし)

また、まけて

かまくらかいどう



どんなきもちで と
おったのかな!?

^{おだじょう}小田城に

(つくばし)

いったんだ。

じんのうしゅうとうきを
かいたんだよ

^{おだじょう}小田城が、^{かんとう なんちょう}関東の南朝
^{いちだいきよてん}の一大拠点 (ちゅうしんのひとつ) とな
ったんだ。

びっくり!



歴史トラベルより

びっくり!

いたたまれず、小田氏
は、北朝がたになっただ。
ほくちよう

びっくり！



北畠親房は、いそいで関
氏（関城）・下妻氏（大宝城）
に のがれていったんだ。

それから、また、げき
とうが、はじまった。

が

たよりにしていた白川
ゆ う き ち か と も ほ く ち ょ う結城親朝が北朝がたにな
ったんだ。

うそでしょう？！

1 3 4 3 ねん。関^{せき}氏^し・下^{しも}
妻^{づま}氏^しは、じがい。

ここにいたって、親^{ちか}房^{ふさ}は、

がっかり！

関^{かん}東^{とう}のたたかい

おわりじゃ・・・

よしの
吉^{よしの}野^のにかえろう



と かえっていった。

でも、ふしぎだ！

どうして、てきだらけのなか、吉野（奈良）までかえれたの！？

そうなんだよ。なぞだらけなんだよ。

こうしたれきしロマンのなかに

かま 鎌 くら 倉 かい 街 どう 道
まぼろし 幻 こどう の 古道

が あったんだ。

すごーい

と なっちゃん、おお
よろこび。

あきおさんに おれい
をいって かえっていつ
た。



なっちゃん、いそいで
かえって、おじいちゃん
に おしえてあげたよ。



「よーく、しらべたね」

えらい えらい

と めになみだをうかべ
て、よろこんでくれた。

なっちゃん、おもわず
にっこり。

こうして、なっちゃん
は、きたばたけちかふさ北畠親房ゆかりのかま
くらかいどうは、やっぱ
り、おくののたからもの
の一つだということが、
よーくわかった。

さて、こんどは、なに
をしらべようかな？

あれあれ？「すごーくたのしかった」と なぜなぜ
くん。つぎのひみつをもとめてスキップしながら か
えっていった。

またね